

JICA の集団研修「地域住民の参加による持続的な森林管理」コースをリモートで実施するためのビデオ撮影をしました

令和2年12月22日

西表熱帯林育種技術園では、森林林業に関連した JICA の集団研修生を毎年 15 名程受け入れています。今年は、新型コロナウイルス流行の影響で国境を越えた移動が大幅に制限されたために、研修生が計画どおりに来園することができなくなっていました。

このような状況の中、可能な範囲で研修を実施するべく、今年度は例年の講義内容の一部を動画撮影して、リモート環境で研修を実施することとしました。

講義内容の撮影は、JICA の研修監理員 1 名、JICA から委託を受けて集団研修の立案・管理を行っている JOFCA（一般社団法人ジョフカ）の職員 1 名、映像制作会社の 2 名の計 4 名が、11 月下旬に 2 日間の日程で来園して行いました。講義は日本語で行い、編集の際に英訳することにしたため、通常の英語での講義と違い気楽な面があった一方、カメラに向かっての一方方向型の講義には戸惑いもありました。

今回撮影した動画を活用しての実際のリモート研修は、2021 年の 1 月に実施されるということです。各国の研修生と JICA の研修監理員、JOFCA の職員の間で動画を用いて研修を行い、その場で答えられない質問を研修生から受けた場合には、JICA が後日西表熱帯林育種技術園に問い合わせ、JICA を通じて回答する計画とのことです。

JICA や JOFCA の関係者は、限られた準備期間で初めての取組をすることになり、実施にこぎつけるまでには様々な検討をされたようですが、このような状況下においても、国際協力の取組が推進するよう努めておられます。西表熱帯林育種技術園もこのような新たな取組に協力しています。



試験地についての解説の撮影



想定される質問に回答する場面の撮影



カメラに向かっての講義の撮影



撮影のために来園された方々との記念写真

（海外協力部 西表熱帯林育種技術園）